

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームうらら
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	上川郡清水町南1条3丁目20番地
記入者名 (管理者)	佐藤 雅彦
記入日	平成 21年 2月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	季刊誌の発行を元に地域への広報活動を増やしたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	引き続き地域活動への積極的な参加を増やす。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現段階での活動としては不透明だが、建物周辺の花壇を整備することで、地域の方たちにも見学してもらい、外出するための機会作りになればと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価での改善点などは速やかに全体会議などで話し合い実践で生かせるよう取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加する地域代表者の方々より意見を頂きそれを基に、スタッフ全体で話し合い実践できるよう取り組んでいる。だが、地域の方々の参加日程の調整が難しく開催回数が思うよう実施できていない。	○	事前の開催日程を決め、より多くの参加をしていただけるよう進めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町職員からのアドバイスを受けながら、運営の適性化を図り、専門的な役割や意見を持つ方から指導を受けグループホームの質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	グループホームでの権利擁護・倫理綱領については施設内事務所に掲示しているが権利擁護・成年後見制度に関する制度の理解・活用などに不十分な点もある。	○	研修会の参加・勉強会の実施
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待の研修会に参加し安全対策、身体拘束等の委員会を設けて虐待防止に取り組んでいる		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>必ず、契約時には説明を十分行い、ご家族の同意・理解を得ながら行っている。不安・疑問な点などは、その都度説明を行い、ご家族の負担に配慮した対応を行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>言葉からの苦情・不満だけではなく、非言語からも汲み取れるよう努力し、迅速に解決策を職員間で考え対応している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時、遠方のご家族には電話等で近況を報告するなど必要に応じて対応している。又、ご家族のご意見、ご希望などがあれば記録に残し、情報を共有しながら対応している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に、ご意見箱を設置し書面での投稿ができるよう対応している。又、グループホームの苦情担当や第三者の苦情受付を設置することで、苦情など広域で聞けるよう体制づくりを行っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月全体会議を設け話し合う機会をつくり意見や提案を引き出せるよう行っている。スタッフ個別のスーパービジョンの実施も行い、日常での悩みなどについても、網羅できるよう行っている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態、生活パターンを把握し、安心して生活ができるよう勤務の調整を行っている。行事等の際は必要に応じた人員配置を行い利用者が生きがいを感じる機会・場面を増やす為に調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が働きやすい環境作りを目指し、離職者を出さない為に職員間での連携を図りながら行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度より研修会に参加する機会が少なかった為、今後の課題でもある。現在、スーパービジョンを行いながら、目標を明確にし、個別的・全体的な研修会の実施を行っていきたい。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同町内にある介護保険施設と地域で、独自のセーフティネットを構築する為、連携を図り行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	施設主任・管理者によるスーパーバイズを受けれるよう日程を組み、業務上の悩みストレス等を聞きアドバイスを行っている。又、休憩時間の環境を確保し対応している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スーパービジョンを通し1年間の目標を各職員が決め実現へ向けて職員の努力や勤務状況を施設主任・管理者は把握し、評価・アドバイスを実施している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前にはご本人に会い、ホームでの生活が安心し、その人らしく送って頂くために、アセスメントを行い、ご本人から希望などを聞く機会を作り対応している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には事前にホームに見学に来て頂き、グループホームでの生活について感じて頂き説明を行いながら、ご家族のニーズを伺いながらスムーズに入所できるよう対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当法人の社会福祉士と連携し、必要に応じた社会資源・他のサービスについて検討している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染みの関係を構築できるよう在宅への訪問や病院への訪問の機会を作り、入所時には安心して入所できるよう配慮している。又、緊張をほぐす為にも、入事前のアセスメントにより職員間での情報を共有し、共通の話題などで会話を行えるよう対応する。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念に基づいた、喜怒哀楽を利用者・職員が実践し、日々助け合い支えながらお互いの関係作りを行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員のみならず、必要に応じてご家族に協力を得ながら、穏やかに過ごせる様、日々の支援に繋げ行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期的な面会や家族と共に行事活動・食事会の参加の機会を作り、共通の時間や空間を過ごせる環境作りを工夫し日常の支援に繋げている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩や買い物など地域に出る機会を増やし、馴染みのある人に会えるよう又、気兼ねなく地域の友人などが訪れ易い雰囲気作りを心がけ支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	さりげなく柔らかな対応や声掛けに職員は配慮に努め、個々に入居者の精神状況を把握し入居者同士の関係作りの手助けとなり孤立感を抱かせないよう支援を心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了後も家族に対しては、季刊誌などでホーム活動を報告するよう繋がり保持できるよう行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の入居者のニーズの把握に努め可能な限り、利用者主体の希望を尊重し、ご家族を含め各専門職から意見、助言、検討を重ね、その人らしさをテーマに支援を行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族からの情報を元に馴染みの関係・環境の把握に努め、背景を考慮した本人らしい安心できるグループホーム生活を送れるよう支援している。又、必要に応じ関係各所との連携を図り対応している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活を詳細に記録へ残し、職員間での情報を共有し心身の変化に迅速に把握できるよう各専門職と連携を図りながら支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族だけではなく、各専門職の意見・助言を取り入れご本人が安心でき、ご本人の意見が尊重された総合的・包括的な介護計画を作成できるよう支援している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身状態の変化を見極め、ご利用者やご家族、専門職との連携を図りながら、ニーズに対し迅速かつ柔軟に介護計画の見直しを行い現状に即した計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活状況を個別に記載することで日常の生活動作や会話の中からのニーズを介護計画に反映し、職員間での情報共有に生かし実践をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内についても各専門的な人材を確保し多機能性を活かし柔軟に取り組んでいる。急変時など医師・看護師による迅速な対応が受けられる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	フォーマル・インフォーマルな社会資源の重要性を認識し、活動範囲の拡大や利用者の生活に反映できるよう支援をしている。又、様々なボランティアなどの協力があり、QOLに必要な財産となっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域にある事業所などと連携を強化し、本人の尊厳のあるサービスを提供できるよう努めている。又、入居前には必要に応じて他の事業所・ケアマネジャーと情報交換を行い、適切なサービスが受けられるよう心がけている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議などの際には地域包括支援センターの保健師などに参加をして頂き指導・助言を受けながらより良い支援に向け、連携を図り行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域に馴染みのある医師が開設したグループホームという事で、ご本人・ご家族の信頼関係が深く構築されている。又、週2回の往診を行っており入居者の健康状態を常に把握できるような取り組みをおこなっている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つけるような声掛けや、声の大きさに配慮し日常支援している。個人情報についても、個人ファイルを作成し管理を行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者主体を常に考え、誰もが気兼ねなく自己決定ができるような雰囲気作りを目指し対応している。又、自己決定が困難な場合についても、日々の生活・行動・嗜好を把握し、家族に相談しながら、その人らしい生活が送れるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、利用者主体の日常生活ができるよう支援を心がけ対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容など以前から馴染みのあるお店があれば地域との関係を維持できるよう支援している。状態に合わせてホームでの理容の相談も対応し行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	以前より食事準備の機会が減ってはいるが、準備の場所を変えるなど環境整備や工夫を検討し対応できるよう支援している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の状態に合わせて食事形態を検討し対応を心がけている。又、当日の献立作成時には聞き取りも行い、柔軟にメニュー表を変え全体の意見を汲み取り配慮して行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	食事内容、水分補給を把握し、栄養バランスに努め、自然な排泄ができるよう心がけている。又、個々に記録を残し排泄パターンを知り必要時にはさりげなく誘導が行えるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴予定を決めて対応しているが、状態や希望時には柔軟に対応し、回数・時間などは事前に確認し了承を得ながら行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中と夜間の区別ができるよう、衣類の交換を促し生活習慣に取り入れ生活リズムを整えられるよう支援し、寝付けないときなどの際は会話の中からニーズを見つけ出したり、心が安らげられるよう工夫などを行い対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活での役割を見つけ、ご本人の負担にならないよう、能力にあった作業や趣味・余暇活動を支援し気分転換などに繋げられるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理についてはご本人の希望を尊重し、ご家族の方と相談の上、支援している。可能な限り自己管理ができる方については、買い物の際に、一緒に買い物へ同行し、支払いなども行えるよう対応している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば外出の調整を行い、職員は社会との繋がり的重要性を理解し個別援助ができるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	会話の中からニーズを汲み取り、個別に馴染みのある場所へ旅行や外出の計画を立てるなど本人、家族を含みながら個別対応を考慮し日々支援している。又、気軽に外出の希望が言えるような雰囲気作りを目指している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	社会との繋がりを保つために希望時は個別に公衆電話等をかけられる対応を行い支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られた際は、職員は爽やかな挨拶を心がけ、ゆっくりと寛いでもらえるよう、雰囲気作りやお茶などを出し、気兼ねなく会え面会者と本人の関係が保持できるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会が中心となりマニュアルを作成し、職員全体で把握し身体拘束に対する意識を持ちながら日々支援している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中夜間を通して施錠はせず自由に出入りが可能。夜間帯の正面玄関は利用者・職員の安全を考慮し外側からは入れないよう対応している。又、浴室などの死角などについては、入浴使用以外は事故防止の観点から施錠し、事故を未然に防いでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は見守りや行動の観察を自然な形でできるよう心がけ、施設内の環境を工夫し居室の入り口にはのれんをかけ、居室内を見え難くしながらも、所在や急変時に早急に対応できるよう配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々に応じた環境整備を行い、自己管理ができるものを見極め安全な生活を過ごせるよう支援している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員会が中心となり、全体会議でのケース検討の実施や法人全体での医療対策委員会でのケース検討時に各専門分野の意見を取り入れ、再検討し対応している。又、事故報告書・ヒヤリハット報告書を作成し情報の共有を実施し再発防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の連絡先を明確し法人で把握し全体での連携の強化を図っている。又、夜間などは夜間連絡者を設置し迅速に応援を得られるよう準備している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣近所や地域の方にも協力を得られるよう、地域を取り巻いた避難訓練を実施し行っていきたい。	○	今後、地域住民の方を取り巻いた避難訓練を実施したいと考えている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入所時やケアプランの説明時には必ず、施設内でのインシデントについての説明を行い本人・家族に同意をもらいながら対応している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定を行い、利用者の健康時の把握に努め、異変時は職員間での情報を共有し、必要時には医師や看護師などの意見・助言をもらい連携を強化し支援している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の疾病に伴う服薬状況の把握に努め、医師だけではなく、薬剤師からも薬に関する注意事項や副作用、用法の情報提供を受け対応している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一日の水分量・食事量を記載し、個別に運動などの機会を作り、自然排便が行えるよう支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	年2回、歯科医師による歯科検診を受け、適切な意見・助言を頂き、支援している。又、職員は食事後などの歯磨きの重要性を理解し口腔ケアの声掛けの強化を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分を観察し記録に残し、利用者の栄養状態の把握に努め行っている。又、個々に食事形態の検討を柔軟に行い状態に合わせて対応している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染線予防対策委員会を中心に、ホームに合わせたマニュアル作成や感染予防発令の情報を職員間で共有し、環境整備などを行い職員全体で予防の重要性を捉え、感染拡大の予防に努めている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	全職員で食中毒や感染予防に対しての情報を共有し、適切に対応できるようマニュアル作成を行い支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には気軽に入れるよう季節の花を置き面会者・来客者を歓迎し入居者で作成した飾りを付けて迎えている。又、建物周囲の花壇の整備、玄関先の清掃を利用者共に職員が行い、訪問しやすい雰囲気作りを心がけ行っている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは自然な光が取れるよう大きく取り、状況に応じカーテンで光などを調節し、音楽などを流し落ち着ける雰囲気づくりを心がけている。屋内は季節感を出す為に花や装飾品などを設置するなど工夫している。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング等はソファや小上がり等を設け、入居者が個々に落ち着いて過ごせられるよう配慮し廊下・玄関などにプライベートスペースとしてソファを設置し思い思いの場所で過ごせるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が個々に馴染み深いものを持ち込んでもらい穏やかに過ごせるよう家族と相談し環境整備している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気分転換や感染予防などの為、細かく換気を行い、ホーム内の湿度・温度など定期的に確認し調節し支援している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLの状況に対応できるようバリアフリーになっており、浴室も身体機能の低下があっても安心した入浴ができるよう手すり補助具などを整備し、利用者が自立した生活が送れるよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の状況に合わせて、日常的な役割を見つけ、お互いに支え助け合い行えるよう、自立した生活に向け支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇や家庭菜園を行い、成長や季節感を楽しんでもらえ、一緒に収穫や、花の手入れなどを行えるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 町内の中心に開設している事もあり社会活動参加が行えやすく、社会（家族・友人・馴染みの方）の訪れる機会が多い。
- ・ 医療法人前田クリニックが事業主の為、クリニックはホーム前にあり利用者の急変時など日中・夜間についても迅速に医師・看護師の協力が得られる。
- ・ 花壇・菜園が充実している